

# れいわPRESS

第17号

2025年12月31日発行



第2回れいわ新選組代表選挙  
新代表は  
山本太郎候補が2選!

第219回 臨時国会  
国会質問をピックアップ!  
伊勢崎賢治、やはた愛、  
佐原若子、上村英明、たがや亮、  
大島九州男、高井たかし



# 第2回れいわ新選組代表選挙 新代表は山本太郎候補が2選!

2019年のれいわ新選組の結党以降、2回目となる代表選挙が2025年12月に行われ、投票の結果、山本太郎候補が過半数を獲得し新代表に決定した。

第2回れいわ新選組代表選挙の立候補者は、山本候補の他、やはた愛、さかぐち直人、れいわボランティアの青柳光亮氏、高校生の篠原一騎氏。

新代表に決定した山本太郎は、2025年12月8日に配信された投開票特番にて、結果を受けて次のように挨拶をした。

すから、その中で代表選挙をやつて、党の中から手を上げるというのも、緊張感があるものだと思うんです。私が旗揚げをした最初の人間ですから、今の執行部に不満もあるのか？ みたいたいことを考えちゃう人もいるかもしねい。

わつたろか！って気持ちもあつたと思いますよ。けれども、やはりよりいいグループにしていくたれこと勇

れいわ新選組が最も開か



れた政党だという象徴的な部分が、やはりこの代表選に集約されていたと思います。

国会議員以外でも手を上げることができて、国会議員1名の推薦があれば立候補できるというシステム。あおやぎさん、篠原さんとこのような形で代表戦を戦

れいわ新選組をボランティアで支えてくださつてきましたあおやぎさん。これまで現場のいろんな仲間の声やご本人が感じてきてくださつたことを切々と訴えていただけましたが、私は耳が

えたというのは非常に素晴らしいと思います。

国会議員以外でも手を上げることができて、国会議員1名の推薦があれば立候補できるというシステム。あおやぎさん、篠原さんとこのような形で代表戦を戦

れいわ新選組をボランティアで支えてくださつてきましたあおやぎさん。これまで現場のいろんな仲間の声やご本人が感じてきてくださつたことを切々と訴えていただけきましたが、私は耳が

痛いとは思わなかつたんですよ。逆に言えば胸が痛いという感情に近かつたかも知れません。

だけど、私たちの配慮が

十分に足りていらないところに関して、「これからじやないだろう、もうスタートしてるんだぞ！」と、そのような声にものすごく背中を押されたというか、これからも一緒にやつていこうという思いも受け取ることができました。

上げてくれて、このようないい申し上げます。政黨の代表戦に参加をしてください。その勇気には感謝を

まだまだ至らない点は多い私たちですけれども、私たちの基礎は、山本太郎という有象無象の中の1人が手を上げたこと。そこから「ひっくり返してやるぞ」という掛け声のもとに「いやあ乗つてやるよ」と全国の皆さんのが集まつていただき、力を合わせてここまで大きくしてくださった。

この原点を決して忘れることなく、さらに拡大していくためにも、仲間のみんながさらに活動しやすくなつていくような組織作りであつたり、れいわのネクストステージに向かつて全力で代表として旗を振つていただきたいという風に思います。今後ともよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

そして、篠原さん。この国の未来を考えた時、私を含めた無関心の大人たちが壊してきた社会によつて犠牲になるのは紛れもない若い人たちです。例えば、国會議員になりたくても年齢制限があつて、そこには届かない。

「じゃあ、私たちの思いはどこにぶつければいいんだ？」と、勇気を持つて手を

そして、あおやぎさんをこの舞台に押し上げてくださいました上村（英明）さん、ありがとうございます。ボランティアと日頃から深い繋がりを持つていろんな声を聞いてきた。そういう繋がりを普段から作つてくださつている議員さんが、ボランティア代表として出た方がいいんじやないかとあおやぎさんを推薦してくださいました。

溢れる代表性につがつたんだなという風に思います。

きつた。そしてこの多様性溢れる代表性につがつたんだなという風に思います。



# 第219回臨時国会 国会質問



高市早苗首相の所信表明演説に対して、臨時国会で各党の代表質問がスタート。

今回は、れいわ新選組の伊勢崎賢治、やはた愛、佐原若子、上村英明、  
たがや亮、大島九州男、高井たかしの国会質問を掲載します。

## いせざきけんじ 参議院議員 伊勢崎賢治

2025年11月13日 予算委員会

1

国連PKOにおける自衛隊の運用について質問をしました。

本題は1999年、当時のアン国連事務総長が告知した「ギャゼット」。

これはPKO活動で戦闘場面となった時には国際人道法を遵守し、

自衛隊を含めた各国の部隊は戦争当事者になること。国際人道法上の中立性はないことを明言。

中立性が前提となっているPKO参加五原則との整合性や自衛隊が海外任務の中で

誤射、誤爆をした際の法整備がされていない事を指摘しました。

この法整備が進まない中で、  
自衛隊の任務はどんどん増えている。  
日本の施政区域の外、若しくは国際的に  
領土や領海の係争地、つまり領域内外が  
曖昧なところにおける  
自衛隊の任務が増えているわけです。



いせざき・けんじ

1957年生まれ。東京外国语大学教授。元国連職員。  
2000年から国連職員としてインドネシアからの独立運動が起きていた東ティモールに赴き、国連PKO暫定行政政府の県知事を務めた。2001年からシェラレオネで国連派遣団の武装解除部長を担い、内戦終結にも貢献。2003年から日本政府特別代表として、アフガニスタンの武装解除を担当した。

動画はこちら



# 衆議院議員 やはた愛

2025年11月21日 厚生労働委員会

2

医療法改正案は、自民・維新・公明による3党合意の医療費削減が大前提であり、病床数削減、予算措置のない医療DXなど、全国で必死に命を守ってくださっている医療従事者を思うと、到底賛成できるものではありません。削減ありきではなく、なにがあっても心配するなどと言えるような、余裕ある医療体制の構築が必要です。その為にも、賃金アップや処遇改善を最優先で行い人手を増やす、れいわ新選組の命を守る為の積極財政を訴えました。



「何があっても心配するな」と国民の不安を取り除くのが厚生労働省の役割だと思っております。それぞれの事情や、働く側にも様々な思いがある、人生もある。数字や効率化ばかりを追い求める事のないように、私自身も自戒を込めて、これからも引き続き質問してまいります。



動画は[こちら](#)

# 衆議院議員 やはた愛

2025年11月25日 農林水産委員会

3

高市総理は農政に興味なし!? カロリーベースで食糧自給率100%を目指すという高市総理。さすがのれいわ新選組もそこまで言ったことはなく、地に足をつけた農政として食糧自給率50%超えを目指しています。一国の総理が現実と乖離した数値目標を掲げることに高市政権への心配が募ります。さらには農水大臣への指示内容も明らかに少なく、総理は農政に興味がないのでは?と言われても仕方がありません。食の安心安全を守るために農政にも積極財政を引き続き訴えます!

総理の口から出てくる数字が現実と乖離していて心配になりました。れいわ新選組としては、地に足をつけた農政として、まずは食料自給率50%超えを目指すことを掲げます。

やはた・あい

1987年兵庫県出身。グラビアアイドルやタレント活動の他リポーターやラジオDJも務める。2020年よりれいわ新選組としての活動を開始し2023年11月衆議院大阪府第13区総支部長に就任。



動画は[こちら](#)

# 衆議院議員 佐原若子

2025年11月26日 経済産業委員会

# 4

日本が維持してきた平和国家としての信用を損なう政府要人の発言に懸念と反対を示しました。

また、四半世紀以上もトラブルで稼働延期が続く六ヶ所再処理工場など、

核燃料サイクルは危険性が大きく、地域住民の負担は限界であり中止すべきです。

長年不安を背負ってきた地元には正当な対価を支払うべきです。

地球と生命を守る理念を持つ企業の取り組みを尊重し、原発に頼らない持続可能な経済産業政策への転換を訴えました。



自分たちの故郷、地元にある施設で事故があれば不安です。

大きな施設の中で何がどうなっているのか、事故の影響は外には広がらないのか。もし体に影響を受ける被害を受けているということがあれば心が痛みます。

さわら・わかこ

1953年青森県五所川原市出身。歯科医師。核戦争に反対する医師の会(IPPNW)常任会員。核燃阻止一万人訴訟原告団・副代表。



動画はこちら

# 衆議院議員 上村英明

2025年11月26日 内閣委員会

# 5

国民の健康を守る要である「リスク評価の独立性」に深い疑念を示しました。

食品安全委員会はPFAS基準を決める過程で、公式の公開会合9回に対し非公開会合を24回行いました。

これら非公開会合では、議事録も音声データも残されていません。欧米の安全基準値より、

数十～数百倍も緩い日本の数値が、こうした不透明なプロセスで導かれた問題を追求しました。

透明性のある審議経過、検討データの公開、

そういう独立した科学的判断こそが市民の健康を守る最低条件だと強く訴えました。



設置当初の食品安全委員会自身が、国民の健康を守るために、審議の公開、議事録の公開を認め、その方針を文書化しています。リスク管理機関である各省庁に付度しない、食品安全委員会のようなリスク評価機関の独立性が求められています。

うえむら・ひであき

1956年熊本県出身。アイヌ民族や琉球民族の先住民族としての国連活動を支援。社団法人新時代アジアピースアカデミー理事、人権NGO市民外交センター元代表。



動画はこちら

# 衆議院議員 たがや亮

2025年11月26日 衆議院国土交通委員会

6

許可事業者の気象予報を利用者が一目で判別できるよう、認証マークやロゴの導入を提案。これに対し金子大臣は、制度の実効性向上には「信頼できる許可事業者を国民へ周知する取組が必要」と述べ、分かりやすく実効性ある周知方策を「今後検討したい」と前向きな姿勢を示しました。たがや委員もアプリやサイトでの認証表示の有効性を強調しました。



国民から見れば、どれが信頼できる気象情報なのかは極めて重要だと思います。認証マーク、認証ロゴを交付し、気象予報サイトなどに提示を義務づけることで、信頼性は高まると思います。

たがや・りょう

1968年生まれ。れいわ新選組副代表。衆議院千葉県第11区総支部長。大学二年生より飲食店を起業。今まで話題店を都内に多数プロデュース。



動画はこちら

# 参議院議員 大島九州男

2025年11月27日 財政金融委員会

7

何度かの与野党の予定調和による「先延ばし」を経て、ようやく可決された臨時国会での「ガソリン税暫定税率廃止法案」での質疑。

大島議員は、なぜ「ガソリン税の暫定税率廃止と同時に軽油引取税も廃止する立て付けにできなかったのか？」と主張。確かに法案では来年4月の軽油引取税廃止と決まりましたが、

「政治の世界ではできるときにやっておくことが重要」と法案成立が遅れたことを改めて批判しました。片山大臣には万が一にも先送りにならないように確実な実行を訴えました。



揮発油税の、当分の間だけ税率の廃止をする法案では、国民生活のほんの一部の負担軽減にとどまるのではないか。なぜなら、流通コストに大きく関連する、全ての国民に慈愛の雨を降らす軽油引取税の当分の間税率の廃止が実現されないからであります。

おおしま・くすお

1961年生まれ。福岡県出身。平成3年より連続3期、直方市市議会議員を務めた。



動画はこちら

総務委員会において、NHK決算の質疑で登壇しました。冒頭、林芳正総務大臣に対し、今後のデジタル政策への取り組みについて質すとともに、警察発表によると3年間で101人が自殺しているSNSによる誹謗中傷問題を取り上げ、早急に省を挙げて対策を講じるように求めました。また、問題山積で限界に達している受信料制度の抜本改革と、視聴率を求めることなく公共放送ならではの高価値な番組作りの必要性にも言及しました。



もうそろそろ受信料制度というのを抜本的に変える時期に来ていると思います。  
受信料で成り立つ公共放送が、何で視聴率を追い求めるんですか。

たかい・たかし  
1969年北海道函館市出身。れいわ新選組幹事長。通算国会質問回数は225回。法案提出数は119本。国会質疑衆議院議員1位。



動画はこちら

れいわ新選組  
HPはこちら

れいわオーナーズ  
ご案内はこちら  
あなたが、れいわ新選組のオーナーになりませんか？

ご寄附の受付  
れいわ新選組は、皆さまからの寄附をお願いしております。頂きましたご寄附は、れいわ新選組が取り組んでいたる政治活動、事務所運営費等に活用させていただきます。

れいわPRESS 第17号



発行・れいわ新選組 れいわPress編集部  
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-5-20 押田ビル4階  
TEL:03-6384-1974

2026年もれいわ新選組を  
よろしくお願ひします！

